

都立青山特別支援学校（港区・渋谷区・目黒区センター校）

特別支援教育センター的機能通信 No.10（通巻 No.85）

つなぐ 

令和 7年 3月 3日(月)

都立青山特別支援学校校長	中澤 将人
相談支援部主任	中村 尚子
文責	黒子 澄子
	今坂 早希

小学部 学校間交流を行いました



1月27日（月）に、青山高校の青山フィルハーモニー管弦楽団（以下青フィル）の生徒95名を本校体育館にお迎えし、小学部1・2・3年生の児童60名と交流を行いました。合図とともにステージの幕が開き、BGMに合わせて青フィルの生徒たちが登場すると、児童らは期待に胸を高鳴らせ拍手で歓迎しました。児童たちに手を振りながら、笑顔で行進し、一人一人が自身の楽器の前にスタンバイ。司会進行も含めて、青フィルの生徒が行いました。青フィルの生徒は、事前に本校から集計を取って選曲をし、この日のために事前の打ち合わせや準備、練習に時間を費やしてくれました。

100名近い楽団の演奏が始まると、その迫力だけでなく、生で体験できる繊細な音色に聞き入る児童たち。楽曲は、本校がリクエストをした「小さな世界」や「キッチンオーケストラ」、また管弦楽団らしく、「仮面舞踏会よりマズルカ」「威風堂々」といったクラシックの曲と続けました。「キッチンオーケストラ」では、青フィルから「歌のお兄さん」が2人登場し、身振り手振りをしながら演奏とともに歌ってくれました。また、今年度も昨年に引き続き、青フィルの生徒が一人一人手作りしてくれた楽器を、手渡しでプレゼントしてくれました。振るとシャカシャカ音が鳴ったり、きらきら光るシールが飾られていたり、同じものが一つもない個性溢れる楽器に、児童たちは目を輝かせていました。プレゼントしてもらった楽器を手に、最後は「ジャンボリミッキー」を一緒に踊りました。初めて交流をした1年生は、緊張した面持ちの子もいましたが、終わるころにはみんなが笑顔。そして、毎年交流を重ねていることで、2年生、3年生は一層意欲的に交流を楽しむ様子が見受けられ、次年度以降の交流にも期待が広がりました。

今回の控室として使用した会議研修室には、3年生が作成したウェルカムボードが飾られていました。交流後には、青フィルの生徒が高校に持ち帰ってくれることになり、3年生もとても喜んでいました。そして、たくさんの青山高校の保護者の方々が見学してくださり、「子供たちが可愛かったです。」「よい交流が見れて嬉しかったです。」などの感想もありました。

また、事前に本校コーディネーターが青山高校に出向いて行った出前授業では、「青山中学校でも交流をしたことを覚えています」という生徒がいました。同じ地域での交流の経験が積み重なっていることがわかりました。これからもこの青山地域で、お互いに思いやりをもちながら、引き続きつながりを大切にしていきたいと考えています。



1日入学を行いました

来年度入学予定者を対象に、2月13日（木）に1日入学を行いました。子供たちが実際に学校の学習を体験することで入学後の不安を軽減し、期待感を高めるため、小学部・中学部それぞれの教室を使用し、小グループに分かれて勉強をしたり、体育館で運動をしたりしました。

中学部の1日入学には小6の在校生も参加しています。いつもと同じ学校ですが、教室が違ったり、普段関わりが少ない中学部の先生に囲まれたりして、

ドキドキした表情を浮かべる児童もいました。他校に通っている児童たちにとっては初対面の友達ばかりでしたが、緊張の中にも仲良くしたいわくわく感が感じられる場面があり、4月からの生活が楽しみになったのではないかと思います。始まりの会では、自己紹介で好きな食べ物を発表し合いました。写真カードから好きなものを選んで発表する姿はどの児童も嬉しそうで、緊張が少しずつ解れていく様子が伝わってきました。その後も友達の発表を聞いて拍手を送りあうなど、温かい雰囲気の中で進んでいきました。初めての環境の中でも自分なりの発表ができたり、友達の発表に意識を向けることができたりと、これまでの学習の積み重ねを感じ、とても頼もしく思いました。

短い時間ではありましたが、児童にとって4月からの学校生活に期待感や安心感を感じられる機会になったのではないかと思います。



◆校内の保護者の皆様からの御相談をお受けいたします。

コーディネーターが御家庭での子育てのお悩みなど、一緒に考え、解決していけるよう御相談に対応しています。担任を通じてお電話や連絡帳にて、御相談ください。

